

# 令和元年度職員団体との交渉結果（第1回人事課長交渉（現業））

## 1. 交渉団体

滋賀県職員組合、滋賀県職員組合現業職員協議会

## 2. 当局側出席者

人事課長、他人事課員

## 3. 交渉日および場所

令和元年11月11日（月）14:45～16:00 本館3-B会議室

## 4. 内容

給料表の見直し、人員体制 など

## 5. 交渉状況

職員団体	県
<p>技能労務職の給料表の国の行政職（二）表水準への見直しについて、現業だけ狙い撃ちするのはおかしい。現業職員は全員高い給料をもらっているのか。給料を下げるといふ提案は、かなり低い評価を受けていると受け止めている。これは現業職全体の士気に影響する。危機的な財政状況であるなどの合理的な理由もない。</p>	<p>皆さんの給料が高いということを申し上げているのではなく、全国的に水準の見直しが進んでおり、相対的に上がってきている状況であるということ。そのため、早急に見直しが必要であり、話し合いをさせてもらっている。</p>
<p>他府県よりも高いという話だが、総務省の各団体の区分別の給料月額等を比較すると滋賀は全国30位。京都、三重、大阪などより水準は低い。提案されるのであれば給料を上げるという提案しか飲めない。</p>	<p>京都、三重、大阪等の詳細な分析はできていないが、本県のラスパイレス指数は高い状況にあると認識している。</p>
<p>会計年度任用職員については、具体的な話がまだ聞けていない。個別についてできるだけ具体的内容を提示していただき、問題があれば組合と話し合うということによかったか。</p>	<p>そのようなスタンスである。ただし、予算措置も前提であることをご理解いただきたい。そのうえで現に雇用されている非常勤職員の方へスケジュールをお知らせしようとしている。12月中には所属向けに説明会を開催したいと考えている。</p>
<p>私たちは自然や動物を相手にすることが多い。引継書を見るだけでできる仕事ではない。1年を通じて、文章にできない仕事もあるので、そういうものを引き継ぐことを考えないといけない。若手を育てるには、3年はかかる。人の配置、技術が継承できるようにお願いしたい。</p>	<p>職場の皆さんからの話を聞かせていただいた。部長に伝えたいので今後の交渉で話し合いをさせていただきたい。</p>
<p>人員について、部局の声は「人を入れてくれ！」だ。新たな職員が来ても、すぐにできる仕事ではない。試験研究で高い精度も求められており、高い技術で下支えしているのは、現業職だ。長期的な目で見ても、代替性も事業の継続性もあり、条件はそろっている。しかも職員の退職も迫っている。あのとき採用していればよかったでは遅い。</p>	